

令和5年度 第1回 吉田町地域公共交通協議会 会議録		開 催	日時	令和5年7月3日(月) 午前10時00分～11時30分
			場所	吉田町役場2階 町民ホール
報告	(1) 令和4年度事業報告及び収支決算報告について (2) 交通拠点の整備について			
議事	(1) 令和5年度事業計画及び収支予算について (2) 「(仮)新しい交通」の実証実験について (3) 共創モデル実証プロジェクトについて			
出席委員	17名			
欠席委員	なし			
オブザーバー	3名			
傍聴者	なし			
<b>議 事 内 容</b>				
会議の成立	委員総数17名の内17名が出席。過半数を超えており会議は成立。			
報告(1)	開会(10:00) <b>(1) 令和4年度事業報告及び収支決算報告について</b> ○事務局説明(資料1) 監査委員による監査報告 質問等なし			
報告(2)	<b>(2) 交通拠点の整備について</b> ○事務局説明(資料2) 質問等なし			
議事(1)	<b>(1) 令和5年度事業計画及び収支予算について</b> ○事務局説明(資料3) 質問等なし⇒承認			
議事(2)	<b>(2) 「(仮)新しい交通」の実証実験について</b> ○事務局説明(資料4) 【質問・意見等】 ○A委員 朝と日中の乗降場所は同じか。夕方は乗降場所が特になく、バスと乗合タクシーを繋ぐだけの運行となるのか。  ○事務局 朝と日中の運行の違いは、朝はバスの乗継ぎに間に合うように乗降場所を限定して運行。それを北と南に分けルートで回る。半定時定路線ということで、時間的に間に合うルートで限定した乗降場所付近に			

も予約があれば寄っていく運行となる。日中については、乗降場所間を自由に移動する運行。よって朝と日中の乗降場所は違うということになる。

**○A委員**

料金について、未成年者の料金はきまっているか。乗れなかった場合のキャンセル料は発生するのか。

**○事務局**

未成年者の料金割引は実証実験期間中では考えていない。キャンセル料については今後検討する。

**○B委員**

導入する車両は、病院への乗り入れがあることからバリアフリー車両や車いすを載せられる車両を採用するのか。

**○事務局**

バリアフリー対応の車両は使用しない。福祉施策での対応となる。

**○C委員**

デマンド交通は県内各地で導入が盛んだが、高齢者の利用を想定したものが多く、高校生の移動を対象にしているのは、先進的だと思う。高校生が公共交通に触れる機会として良いと思う。

料金設定については、町民限定なのか。また、一日往復で600円、月に20日となると単純に1か月12,000円となり負担となってしまうが割引等は今後検討するのか。

**○事務局**

バスの乗継ぎについては、割引を検討している。

**○D委員**

校外学習等でこの“ぎゅっと”カーよしだを使いたいが、10名くらいでの利用は出来ないか。

**○事務局**

実証実験中は基本説明のとおり車種と台数で運行するため、その乗車数の範囲となる。実証実験での利用実態がどうなるかで台数などに

については今後検討していくことになる

#### ○B委員

周知について、住民説明会をすることだが、その後の利用について問い合わせ先はどこを想定しているか。役場のみか、事業者も含めるのか。

#### ○事務局

運行に関する問い合わせについては  
役場と運行事業者と整理して周知する予定。

#### ○E委員

今回の実証実験について事前協議等についてご協力いただいたシステム業者やタクシー事業者の皆さまに感謝申し上げます。

スケジュールだが、8月の協議会、さらに部会も必要となるのでそのあたりをスケジュールに示すこと。8月に運行の詳細が決まり、道路運送法の申請については委員の皆さまへ書面ではなく対面で開催した方がよい。

高校生に関しては、(浦田委員の) ご意見のとおり 300 円だとほぼ乗らないと思っている。バス路線との兼ね合いもあるため、定価の割引は難しいが、バスの定期券を所持している場合は“ぎゅっと”カーよしだの料金を無料もしくはそれに近い値段とするべきである。実証実験の際に多くの方に乗ってもらうことが重要で、実証実験で乗ってもらえなければ本格運行へ移行する場合に何が必要かという示唆を与えない。

榛原高校へ7月20日に(公共交通や“ぎゅっと”カーよしだについての) 講話を行うが、料金が1回300円では乗らないとなってしまう可能性があるためそれまでに料金についての話は詰めていただきたい。

朝の運行の乗降場所が決まっていないというのは、どこでだれが乗るかが分かっていないため、事前に乗る可能性がある方にどこでの乗るかをアンケート等で聞いて、そこの停留所へ停まっていくようにと、それでルートが定まっていく。そこで乗る場所が決まってきて、間に合わなければいけない時間があるので自ずとルートが決まってくる。もし夏休みに入ってしまうとその調査が出来ない。それとも夏休みに入ってからその調査ができるのであれば(その調査を) 検討してもらいたい。「(実証実験を) こういうふうにするので」と窮屈に言

うのではなく、むしろ使い方の説明をきちんとしないとイケないと考えている。

高齢者の使い方については、高齢者関係の委員の皆さまにはぜひ宣伝をしていただきたい。バリアフリーや特別支援学校の生徒の利用については、恐縮だが、オンデマンド型乗合タクシーは何人かの方が乗り合って目的地に行くため、時間的な制約や予約が必要になる。工夫次第では利用できるかもしれないが、実証実験では対応は難しいと考える。

### ○事務局

使っていただくという前提で料金設定については検討する。支援学校のような町内の移動ということでは、団体予約については今後検討していく。高齢者への説明会、会員登録は、社会福祉協議会に説明会の機会を設ける予定。

### ○E委員

乗り継ぎしてくれるということはバスも利用してくれること。さらに定期券を持っている方には普段の町内の移動にもお得に使っていただけるようにすると定期券を買う方が増え、それが町の地域間幹線への負担が減るということになることも考えて欲しい。そういう観点から“ぎゅっと”カーよしだの運賃設定を考えていただきたい。

実証実験では難しいかもしれないが、1枚くらいはお試し券を配布した方がよい。乗ってみないと分からないので、その決心をつけてもらうためにもお試し券を配布し、往きでお試し券を利用し、乗って良いなと思えばその帰りに料金を支払って乗ってもらうことで、乗車回数が増えるかもしれない。さらに何回も乗る方には将来的には回数券、サブスクや乗り放題を検討してもらえればと考えている。何カ月たって非常に利用が多いということであればそういったことを検討する必要がある。気軽に乗ってもらうには工夫が必要なので実証実験を進めるうえで何かいい案があれば進行に応じて何か提案できればと思う。

### ○会長

「新しい交通」改め“ぎゅっと”カーよしだの実証実験について料金や乗降場所の選定は後日事務局から報告とするが、事務局からの説明、委員の皆さまのご意見を踏まえ、実証実験を実施するということが異議はないか。

	→異議なし、承認
議事(3)	<p><b>(3) 共創モデル実証プロジェクトについて</b></p> <p>○事務局説明（資料5）</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>○C委員</p> <p>説明について資料に記載がなかったので内容を確認したい。実証実験の実施にあたり共創モデル実証プロジェクトという国の補助金獲得のため、申請期間が短いという時間的な制約があるなかで、以前から協議会で十分検討されている内容のため、申請すること自体は良いと判断し、会長専決で既に補助金申請中で、申請内容はこういうものだということによいか。</p> <p>○事務局</p> <p>お見込みのとおり。</p> <p>○E委員</p> <p>これは昨年度からある補助制度で、今年度は拡充されている。「共創」ということで様々な機関が一緒になって公共交通を上手く創っていくということに対して国が支援してくれるという制度。今回は様々な機関に参加いただいて、盛り上げていくために、そのアシストになるということで補助を申請した。大事なことは、この補助金の期間は1年限りで実証運行が対象になり、継続的に受けられるものではなく、(運行経費等の支出は)基本は町が支出する予算や運賃収入や協賛金の他、通常のフィーダー補助やエリア一括等、経常的に補助をいただく仕組みになるので、そこは違うことは注意すること。今回は皆さんに知っていただいて、乗っていただいて、どういうふうに盛り上げたらいいかを学ぶためにこういう機会をいただいて、お金をいただきながらやるということが理想なので、そういうことに国も巻き込んで一緒にやろうという提案だと御理解いただきたい。</p> <p>○会長</p> <p>それでは、事務局からの説明を踏まえて関係者の皆様と連携して、“ぎゅっと”カーよしだの実証実験を進めていくことで異議はないか。</p> <p>⇒異議なし、承認</p>

<p>その他</p>	<p><b>○F委員</b></p> <p>資料4ページの役場前バス待合所について、実際に拝見したがバス待合所は快適で良いが、快適過ぎてバスが来たことに気づかない可能性がある。バス運転手の立場から言わせてもらおうとせめて2、3分前にバス停にいるようしていただきたい。最近はイヤフォンをしている方がいてバスが来たことに気づかないこともある。そのあたりの注意書きや季節にもよるが窓を開けてバスのエンジン音や外部の音が聞こえるようにするのが良いかもしれないと感じた。</p> <p>2024年問題で、タクシーも含め運転手不足が深刻な状況。静岡市内でも運転手が不足し運休している路線もある。先日、中津川市の公共交通会議について触れる機会があり、市と交通事業者との取組で、移住支援で、県外等からの移住者が公共交通事業者へ就職した者に対し市が支援をするということで、運転手という仕事に焦点を当てた移住者の確保を行っている。別の例では別府市は、移住し運転手として5年間定住・勤続した者に対し100万円支給することを検討しているということも聞いている。他市町も運転手不足に対して取り組んでいる。吉田町はホームページを拝見したところ就業支援金について、公共交通事業者に対しては無かった。ぜひそういった取り組みを検討していただきたい。</p> <p><b>○E委員</b></p> <p>吉田町は交通事業所がない。そういうところだけでやっても意味がない。事業所がある市町とその周辺を巻き込んで支援する必要がある。支援は県や広域的に取り組む必要がある。しずてつジャストラインは静岡県内で具体的な取り組みはあるか。参考までに豊橋市は市を挙げてバス・タクシー合同説明会として、全事業者が揃い、就職を希望する者に対して説明会を開催している。</p> <p><b>○G委員</b></p> <p>担い手不足は大きな課題になっている。運行エリアの自治体と話をしているが、採用活動に協力いただいているところはいくつかあるが、移住して弊社に就職した者に対して金銭的な助成をしている自治体はない。そういう先行事例もあるので今後自治体へ相談したい。</p>
	<p>閉会（11：30）</p>